



中核市サミットでの記念撮影

市長コラム

日っネ心

秋田市長 ● 穂積 志(もとむ)

令和6年「中核市サミット」

いつの間にか街路樹や公園の紅葉も散り、季節はすっかり晩秋から初冬の装いです。令和6年の締めくくりにあたつて、私なりにこの1年を振り返つてみます。

まずは10月に開催された「中核市サミット2024 in 秋田」。全国62の中核市の市長が一堂に会し、都市に共通する課題について議論するとともに、その成果を全国に発信するものです。私もこれまで各都市で開催されたサミットに出席していましたが、自ら開催都市になることで、テーマや課題を主体的に設定できるという点と、全国から市議会議員や自治体職員などおよそ500人が集まり、秋田市の魅力をPRする絶好の機会となり得ることから、以前から強い関心を持っていました。それがこのたびようやくかなったということになります。

設定したテーマは「再生可能エネルギーが創るまちの未来」と「芸術文化が創るまちの未来」の2点です。それぞれにパネルディス

カッションを行い、私もパネリストとして、「新エネルギービジョン」の策定や「国内最先端の新エネルギー産業都市」に向けた北海道石狩市との共同研究会について発表しました。洋上風力発電などの新エネルギー分野のトップランナーとして、意義深い情報発信ができたと考えています。また現場視察では「国土交通省港湾業務艇あきかぜ」に乗船し洋上風車を間近に見ていただくなど、鮮やかな印象を持ち帰ってもらうことができたと思います。

一方「芸術文化」の関係では、そもそも会場となった「あきた芸術劇場ミルハス」自体、県民会館と市文化会館の機能を集約し、管理運営面を含め県市連携で一体的に進められたことが、これまでにない先駆的な試みとして大変好評でした。これは、将来を見据えた持続可能な施設のモデルとして位置づけられています。

オリンピックイヤーの今年、パリオリンピックでは日本中が盛り

上がりました。北都銀行バドミントン部の「ナガマツペア」永原和可那・松本麻佑両選手も記憶に新しいところです。惜しくもメダルには届きませんでした。私たちに夢や元気を届けてくれました。11月でペアは解消されましたが、秋田市での10年間の活躍を忘れませんし、心から「ありがとう」と言いたいと思います。

8月には姉妹都市提携40周年を記念し、ドイツ・パッサウ市から40人の市民交流団の来秋もありました。また10月、秋田公立美術大学と台南應用科技大学の交流から、かねて縁のあった台湾・台南市と「秋田市と台南市との交流協力に関する合意書」を締結しています。歴史的にも友好関係を築いてきた同じアジアの隣人として、学術やスポーツ、経済、観光など未来につながる交流にしていきたいと思っています。

それでは、何かと慌ただしい年の瀬を迎えますが、みなさん元気にお過ごしください。

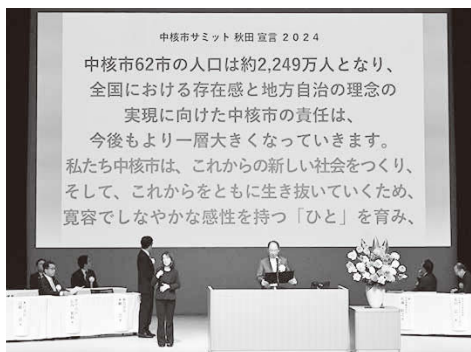
開催市歓迎あいさつ



パネルディスカッション



中核市サミット 秋田宣言



秋田市初開催「中核市サミット」 再エネ、芸術文化について議論

10月31日、全国62の中核市の市長や議員らが一堂に会した「中核市サミット2024 in 秋田」が、ミルハスをはじめ芸術文化ゾーンを会場に開催されました。

27回目となる今回は、「これからをつくる、これからを生きる」中核市が創る『ひと・まち・くらし』の未来をテーマに議論を展開。開会式に続いて、東京大学名誉教授の荒川忠一さんが、「洋上風力発電によるカーボンニュートラルと地域振興」と題した基調講演を行い、これからの脱炭素社会と地域の魅力づくりの方向性を共有したほか、

●問い合わせ

企画調整課 ☎(888)5462

*「秋田宣言」の全文は、中核市市長会のホームページでご覧になれます。
<https://www.chuukakushi.gr.jp/>

翌日行われた中核市市長会議



土崎みなと歴史伝承館などを視察



秋田市への寄付ありがとうございます

寄付者Ⅱ 明治安田生命保険相互会社



介護・認知症対策などに役立ててほしいと、135万700円を寄付していただきました。

●問い合わせ

福祉総務課 ☎(888)5657

：10月11日の寄付受納式。
穂積市長の右が明治安田生命保険相互会社の森口高志北海道・東北地域リレーション本部長、清水潤也市場開発担当部長、斉藤仁営業支援担当、左が岸本輝彦秋田支社長、佐々木裕美千秋営業所長

寄付者Ⅲ 秋田県中部地区郵便局長会



災害対応の際に役立ててほしいと、65インチモニターとキャスターを寄付していただきました。

●問い合わせ

防災安全対策課 ☎(888)5434

：10月23日の寄付受納式。
秋田県中部地区郵便局長会の千田博幸会長と穂積市長